



世界の人々が愛でる桜、HANAMIはクール？！

湘南台東の境川沿い遊歩道の桜並木が、例年より一週間ほど遅れて満開を迎えた。土日でも見頃ではあったが、不安定な天候のため花見客はほとんど見られなかった。しかし今日、4月10日(月)は、暖かい陽光のもと、最高の輝きを放っていた。立派に育った桜並木の幹から伸びた枝が見事な花のトンネルを作っていた。その中を通る老若男女誰もが魔法にかかったように笑みが浮かび柔和な表情になるから不思議。杖を片手に散歩を欠かさないおじさんの一言「今年も桜がきれいに咲いてくれた。桜を見ると元気が湧いてくるんだ！」が耳に残った。



桜と言えば、小さいとき見た桜が、親の大反対を押し切って遙々ハンガリーから日本に来て働くことになった女性のことを思い出した。

最近、日本のクールなところを紹介するようなテレビ番組が増えたようだが、その中のひとつに、日本で働いている外国人が日本で生活していて便利と感じた日本製品を故国の家族のために土産として届けることで繰り広げられる人間模様で構成された番組を偶然見た時に“桜と女性”が登場した。ハンガリー生まれのその女性は、6年前来日し、現在日本で英会話学校を運営している。厳格な父親の決めたルールが絶対という家庭で育てられた一人娘は、高校卒業まで仏語、英語、パソコンなどの資格を取ることを。将来は先生という職業までルールが敷かれていた。年頃の女の子がかかる流行とは無縁の勉強一筋の学校時代を送ることになった。勉強、勉強の毎日の中、息抜きに聞いていた音楽、そこで日本の音楽との出会いがあり日本を知ることになった。また、父が連れて行ってくれた公園で、もっと日本が好きになる出会いがあった。それは・・・桜だった。日本が好きになり、日本人に会いたくなり、日本への憧れが強くなっていった。大学に進学・・・日本語学部に入ったことで遙か遠い国が身近になった！ キャンパスには日本人学生がたくさんいた。日に日に強くなる日本へ行きたい思いを、ついに父親に訴えた。当然父親は大反対。折り悪く2011年3月東日本大震災があった。父親はその新聞記事を見せながら「こんな状態でもパニックを起こさずルールを守って行動する日本っていう国、国民は素晴らしいと思う。思うが・・・」と言いながら何とか娘の日本行きをやめさせる説得をしたが燃え上がる情熱の炎は消せなかった。大学を卒業し、ついに父親の反対を押し切って憧れの日本に旅立ったのであった。

それから6年、日本での生活も安定してきたところで、久しぶりの帰郷をする決心をした。反発の対象でしかなかった父親も今では腰痛をかかえ日常生活が大変になってきた。風呂で暖めるのが唯一の治療法だと母親に聞いた。そこでハイテク日本の誇る24時間風呂を父親にプレゼントすることにした。

最終的に、父娘仲直りできて、24時間風呂を父親も気に入り、全員笑顔になって番組が終わった。桜が1人の外国人女性の人生をドラマティックなまでに変えたという心に残る番組であった。

2017年のインバウンド(訪日外国人旅行者)が、2700万人を突破する見通しだという。昨年のインバウンドは2410万人(前年比+22.1%)という。その中でも多いのが3月、4月のお花見シーズンだそう。有名スポットでの外人花見客は急増中で、HANAMIは世界語になり、ジャパングールの上位にあげられるとのこと。クールジャパンを求めて来日するイン



バウンドはオリンピックもあり、しばらく増加傾向は続きそうだ。ここで私たちが肝に銘じておかなければならないことが一つあるように思う。それは、「そうだ、日本へ行ってみよう！」と思い、それを叶えた来日外国人の皆さんが、「来て良かった日本！住んで良かった日本！」と感じてもらえるような「おもてなし」や「交流（ふれあい）」を一人ひとりが心がけることが大切なのでは・・・。

外国人によるスピーチ大会に出場！



3月4日（土）の午後、湘南台公民館地下二階体育室にて湘南台公民館エリアで日本語を学んでいる外国人によるスピーチ大会「いろいろな国の人の話を聞こうよ」が開催された。このスピーチ大会は、湘南台公民館とプラザの連携事業で今年第二回目が実施された。外国市民対象に日本語指導をしている「地球市民友の会」「日本語こんぺいとう」「日本語教室なかま」「湘南日中友好協会・かわせみ」の生徒や各団体のボランティアスタッフの皆さんで作り上げたスピーチ大会だった。地球市民友の会・日本語友の会からは、以下の三人が出演した。

- ・屋嘉比パブロさん（ペルー） 「日本語を勉強するきっかけ」
- ・グエン ティ フェさん（ベトナム） 「日本で学んだこと」
- ・タラノワ スイトラナさん（ロシア） 「日本に住みたくなった私」



最初、学校の面談やお医者さんの説明が分からなかった。初めての給料全部さいふに入れておいた。バスを降りて買い物に行ったときお金がないのに気づいた。友達の手紙でバス会社に連絡したら、次の日、さいふもお金も全部もどってきた。（拍手）



日本語が分からなかったとき、スーパーに行って道に迷いました。日本人会ったので在留カードを見せたら、家まで連れて行ってくれました。日本人の親切に感動しました。子どもが小学校に上がった時に、日本語を勉強したいと思いました。



日本に来たとき、日本のことを全く知りませんでした。ロシアでは生魚を食べる習慣がなく寿司屋で出た卵焼きも魚の身かと思いました。日本語の分からない私が、ひまわりの油を見ただ目で選んで買ったら、それはみりんでした！ 今では、子どもが日本の小学校に通い、アルバイトのすし屋で卵焼きを焼いています。

各出演者のスピーチをうなずきながら聞いていた聴衆からは大きな暖かい拍手が送られた。様々なテーマで行われたスピーチには、日本人が余り意識していない中に、「母国の文化や生活と比べながら気づいた日本の良さ（ジャパंकール）をたくさん取り上げてくれました」「日本人として誇りに思いました」

「日本語の勉強だけでなく、日本を理解しよう、交流しようとする姿勢が素晴らしい」等々の感想が寄せられた。来日外国人が日本に来て良かったと思い、日本人も彼らのことをもっと知りたいと思う。そんな関係の輪が広がっていくようなスピーチ大会であった。

また、スピーチ大会に少し緊張気味に取り組んだ経験は、出演者にとって大きな自信になり、これからの日本語学習に更に弾みがつくものと思った。

ペルーではエルニーニョの大雨で水害拡大！

～FROM “カルタ デ タンボグランデ”～ b y 田崎丸美

（2016年11月から2年間、ペルー北部のピウラ県タンボグランデ町役場経済開発課で活動中）

iHola! 4月になり、日本でお花見をしたいなと何度も思いました。町は4月には涼しくなると期待



していましたが、相変わらず 30 度以上の日々が続いています。11 月に町に来てからずっと暑いので、1 年の半分は暑いのかなと思います。今年はエルニーニョ現象の影響で大雨が降りました。3 月は毎日雷を伴う大雨が降り、3 月末には町の中心を流れるピウラ川が決壊し、多くの家が浸水しました。家の崩壊や、水に流されたり雷が落ちて亡くなった人もいます。ペルー北部全体がこのような非常事態です。町には学校や図書館、劇場、バスの駅に避難所ができ、テント生活をする人もいます。幸い、私の部屋は雨漏りと壁がカビだらけになる程度で無事に生活しています。しかし、川が決壊する前日にピウラ市に出かけていたところ、川の水位が増して橋が封鎖、そして翌日に川が決壊したため、町に 1 週間帰れなくなりました。1 年のうち 1 月から 3 か月しか雨が降らず、雨への対策が出来ていないため、被害が大きいのかと思います。1983 年、1998 年もエルニーニョ現象で大雨が降り、今回のような被害が出ています。学校の始業は 1 か月以上延期、多くのイベントが中止となり、3 月に予定していた活動も行うことができませんでした。

水害状況



平常は歩いて通れる道も 2 月から川のようになり、台車や浮き輪に乗って通らないといけない所もあります。ピウラ川は町から 60km 離れたピウラ市へと流れており、ピウラ市でも川が決壊して家の中に肩の高さまで水が入ってきたという友人もいます。非常事態を受けてペルー各地や海外、日本からも支援が届いています。日本では地球の反対側にあるペルーの様子はあまり報道されないのかなと思います。日本の方々にもペルーの様子を知ってもらうため、協力隊員が Facebook にてニュースを日本語で発信しています。宜しければ「青年海外協力隊ペルー水害支援 2017」とご検索ください。(以上、田崎 丸美さん Carta より)

ペルーの拡大する水害の被害を、田崎さんの Carta de Tambogrande で知りました。そして早速「青年海外協力隊ペルー水害支援 2017」を開いて見ました。以下協力隊員が発信している Facebook からの情報です。

青年海外協力隊ペルー水害支援 2017



在日ペルー大使館が被災者支援のための募金口座を開設しています。いただいた義援金は、INDECI（国家防災庁）を通じて被災者の元へ届けられます。被災地の一日も早い復興のために、みなさまのご協力をよろしくお願い致します。

在日ペルー大使館、および、在東京・在名古屋ペルー総領事館は、ペルーの各地で続いている自然災害による被災者へのご寄付の受け入れ口座を開設いたしました。日本の皆様からのご厚志によるご支援に心より感謝を表します。

ペルーでは沿岸部を中心に“El niño costero（エル・ニーニョ・コストロ）現象”の影響により、大規模な水害に見舞われています。現在も、雨は降り続いており、被害はますます深刻になっています。

*El niño costero（エル・ニーニョ・コストロ）現象とは・・・ペルーとエクアドル沿岸部の海水の温度があがり、それらの地域で強い雨を降らせる現象。

この度、日本社会にみる連帯の精神にならい、ペルー政府の推進する「ウナ ソラ フエルサ “Una Sola Fuerza”（力をひとつに）」キャンペーンの一環として、ペルー外務省の指示に従い、日本の銀行口座を開設いたしました。当口座へのご寄付の全額が、INDECI（国家防災庁）へ送られます。現在 INDECI（国家防災庁）が、被災地域における救援活動を行っております。

つきましては、皆様のご寄付は次の銀行口座へご入金いただきたくお願いいたします：

口座名義：CONSULADO PERU TOKIO-AYUDA A DAMNIFICADOS 2017

コンスラード ジェネラル デル ペルー エン トキオ アユダ ア ダムニフィカドス 2017

銀行名：三菱東京 UFJ 銀行

口座番号：3056528 口座種類：普通

支店番号：615

支店名：五反田駅前支店

通貨：円

これは、在日ペルー大使館、在東京及び在名古屋ペルー総領事館による唯一の公式な活動です。この連帯のキャンペーンにご参加いただけましたら幸いに存じ上げますと同時に、私どもは、ペルーにおける被災者へのご支援に心より感謝申し上げます。

ことばカルチャ

「よもやま話」とは？

最近、東勝寺で仏教のイロハについて気軽に話を聞いたり、問答ができるような仏教四方山話の会を作ろうという話が持ち上がった。最終的には「大人の寺子屋」という名前が付けられ、寺や仏教について四方山話をする会が第3土曜日13時から開催することになった。

さて、「四方山話」が気になりますね。四方山という山がどこかにあるのでしょうか。さっそく「語源由来辞典」で調べることにしました。

「よもやま（四方山）話の四方山は、『四方にある山』の意味でも用いられるが『山』と付くのは『やも』が『やま』と変化した後には当てられたもので、『よもやま（四方八方・四面八面）』の音変化と考えられる。よもやまは、『四方八方』から『あちこち』『さまざま』『いろいろ』『世間』といった意味になり、そのような話題の話を『よもやま話』というようになった。」

<使い方例>

・よもやま話に花が咲く ・よもやま話で暇をつぶす ・よもやま話でもしようよ
ちなみに英語では、talk about various topics

2017年度の主な活動予定

☆地球市民友の会 理事会 5月13日（土）午後6時～ 場 所：東勝寺

☆スペイン語教室交流会（先生・保護者・理事・関係者） 5月27日（土）

☆地球市民友の会 第5回通常総会

6月 3日（土）午後5時～ 場 所：東勝寺

内容：2016年度事業報告、収支報告

2017年度事業計画、収支計画、他

☆MINTOMO教室交流会（先生・理事・日本語友の会先生） 6月17日（土）

☆お泊まり会 8月19日（土）20日（日）

☆TERRAとも交流会（NPO会員・関係者） 9月30日（土）6時半：菊華大飯店

☆ふじさわ国際交流フェスティバル

日時： 未定

場 所： 未定

☆日本語友の会 野外教室 11月頃予定

☆MINTOMO 交流会 12月 2日（土）予定 場 所：湘南台公民館

☆年末国際交流会 12月29日（金）午後6時半 場 所：東勝寺